

2.

研究プロジェクト

2018 年度研究プロジェクト成果報告

(Ⅰ) 政治・思想とジェンダー

(Ⅱ) 生殖・身体とジェンダー

(Ⅲ) 経済・移動とジェンダー

2018 年度外部資金獲得状況

学会等活動一覧

▶ 2018 年度研究プロジェクト成果報告

学際的、先駆的ジェンダー研究を目指して

ジェンダー研究所は「グローバル女性リーダー育成研究機構」の中核的な研究機関として先端的ジェンダー研究に取り組んでいる。

ジェンダー研究所は、21 世紀 COE プログラム『ジェンダー研究のフロンティア』（2003～2007 年度）成果を含む、過去の優れた業績とその後の研究成果を発展させ、伝統的な学問分野に縛られない学際的で先駆的なジェンダー研究を志しており、これからも日本のジェンダー研究の発展へ貢献することを目指している。また、アジアにおけるジェンダー研究の拠点を目指し、国際的な共同研究と、その成果発信を積極的に進めており、蓄積された研究成果は広く社会へ還元していく。

3 分野の先端研究領域の発展と国内・国際共同研究をリード

研究所の構成メンバーの退任と新規着任により、研究領域が 5 分野から 3 分野へと再構成された。(I) 政治・思想とジェンダー、(II) 生殖・身体とジェンダー、(III) 経済・移動とジェンダーである。3 分野は、独自性を維持しながら有機的につながり、総合的な研究成果を達成することを目的としている。これらの研究分野で活躍している海外研究員受け入れも継続して実施している。今後も、学内研究員、客員研究員、研究協力員の協力を得ながら、研究成果をあげていきたい。各研究分野における今年の成果として、研究会の実施、IGS セミナー実施、成果出版物の刊行、国際共同研究の実施、国際ネットワークの構築、国際学生交流を実施したほか、研究所メンバーらの論文執筆、学会発表、講演なども活発に行われた。個々のプロジェクトの研究成果については、本書 17～37 頁を参照していただきたい。

国際シンポジウム、IGS セミナー、研究会を開催及び学術雑誌『ジェンダー研究』の刷新

各研究分野における質の高いシンポジウムやセミナーの開催と、『ジェンダー研究』21 号の刊行により、ジェンダー研究の成果発信に力を入れた。

研究者及び一般市民を対象として、時宜にかなうテーマの国際シンポジウムやセミナーを複数開催し、聴衆との議論の場も設けることで、研究成果の社会還元に努めた。加えて、特別招聘教授の企画によるセミナーや国際シンポジウムも開催し、ジェンダー研究の国際的な成果を共有することができた。

本年度から本研究所の年報『ジェンダー研究』21 号が 1 年の準備期間を得て刊行された。創刊以来 20 年の成果を持って、昨年度から新しい雑誌体制に移行し、事務局を拡大し、学外編集委員を追加した。21 号は、国際シンポジウムでの研究交流の成果である特集論文 4 本と、研究論文 2 本、特別寄稿 1 本、そして書評を大幅に増やす構成になり、2018 年 6 月発行した。(本報告書 122～125 頁参照)。『ジェンダー研究』の刷新により、ジェンダー研究のさらなる発展を図りたい。

2018 年度研究プロジェクト 3 分野別一覧

(Ⅰ) 政治・思想とジェンダー
IGS 研究プロジェクト 「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究
科学研究費基盤研究 B 女性の政治参画の障壁：国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査
韓国研究財団一般共同研究 議会内政治的代表的性の性差に関する公式、非公式的制度要因分析：韓国・日本・台湾比較分析
IGS 研究プロジェクト リベラル・フェミニズムの再検討
IGS 研究プロジェクト 「東アジアの越境的女性運動」研究
(Ⅱ) 生殖・身体とジェンダー
IGS 研究プロジェクト 生殖医療とジェンダー
IGS 研究プロジェクト 人口政策としての不妊治療支援に関する日韓の比較研究
科学研究費基盤研究 C 諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究
公益財団法人トヨタ財団 2016 年度研究助成プログラム (B) 個人研究助成 生殖補助技術で形成される家族についての研究
科学研究費基盤研究 C AID で生まれた人の「出自を知る権利」を保障するための教材作成に関する研究
(Ⅲ) 経済・移動とジェンダー
IGS 研究プロジェクト 資本と身体ジェンダー分析
科学研究費基盤研究 B 新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー：インド・フィリピン・中国の国際比較
IGS 研究プロジェクト 日比間の在留資格「興行」をめぐる言説編成の解明：入国管理のジェンダー分析を目指して
科学研究費基盤研究 B 日比間の人々の移動における支援組織の役割：移住女性と JFC の経験に着目して
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 (B)） グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの：聞き取りとネットワーク分析から
科学研究費基盤研究 C 人身売買／取引をめぐる市民活動の変遷：ネットワーク再構築に向けて
科学研究費基盤研究 C 現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容
科学研究費基盤研究 C インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合

(I) 政治・思想とジェンダー

「政治・思想とジェンダー」研究では、東アジア地域における民主主義の有り様と政治代表性の関係について国際比較研究を行う他、国境を越えて連帯する女性運動、及びイギリスの自由主義フェミニズム思想の発祥について考察する。国家、市民社会、思想という異なる次元からジェンダー秩序に基づく既成権力の在り方を明らかにするとともに、それに対抗する思想や運動を総合的に研究する。

2018 年度は、新規研究プロジェクト(科学研究費 B)が採択されこれまでの研究をさらに進化させることができた。引き続き、関連研究会やセミナーも実施した他、成果物も刊行した。

IGS 研究プロジェクト

「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究

【研究担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【概要】

東アジア地域はその経済発展の成果により国際的に注目されているが、政治の民主化の道筋は一樣ではない。本研究プロジェクトでは、日本、韓国、台湾の民主主義の有り様と政治代表性の関係について、ジェンダー視点に立脚した国際共同研究により比較分析する。議員を対象としたアンケート調査、政党、議員、市民社会関係者へのインタビューや現地でのフィールドワークを実施するほか、定期的な国際シンポジウムや研究集会を開き、研究交流を促進する。東アジア地域において、政治代表性の男性優位性が続くメカニズムを明らかにし、政治制度におけるジェンダー公平性・多様性を実現させる政策も検討する。2018 年は成果をまとめつつ、国内外で成果発表に力を入れた。

【研究内容・成果】

論文掲載	2018, "Gender, Election Campaigns and the First Female President of South Korea," <i>The Journal of Gender Studies</i>, No. 21, pp. 71-86. 2018, "Introduction for the Special Section," <i>The Journal of Gender Studies</i>, No. 21, pp. 5-8. 2018, "South Korean Views on Japan's Constitutional Reform under the Abe Government," <i>The Pacific Review</i>, Vol. 31, Issue. 2, pp. 256-266 (with EJ Cho) DOI: 10.1080/09512748.2017.1397731 2019, 「女性政治リーダーをどう育てるか?——政治分野における男女共同参画推進法の活かし方」『都市問題』110 巻1月号、83～91 頁 (三浦まり共著)
学会発表	2018, "Are Women Legislators More Peace-oriented?" World Social Science Conference, Fukuoka, Japan, Sep. 25-28. 2018, "Does "Constituency Facetime" Reproduce male Dominance: Insights from Japan's Mixed-Member Majoritarian Electoral System," International Political Science Association, Brisbane, Australia, July 21-25 (With Mari Miura and Jackie Steele).
報告書刊行	『台湾におけるジェンダー・クオータ：その経験と影響分析』東アジアにおけるジェンダーと政治ブックレットシリーズ No.1 (著者：Chang-ling Hwang、シリーズ編集者：申琪榮) 2019 年 3 月 (本報告書 126 頁参照)
国際シンポジウム登壇	福岡県国際女性シンポジウム『Cast Your Shell 殻を破れ』コメンテータ、2018 年 9 月 8 日。 「韓国のクオータ制度は定着したのか」釜山大学 女性研究所 30 周年記念シンポジウム『政治代表性のジェンダー格差と制度』2018 年 9 月 14 日 釜山市 「MeToo から女性政治まで：社会の周辺から政治的主体へ」市民政治フォーラム(홍익표, 이정미, 진선미의원 공동대표) 2018 年 8 月 24 日、ソウル市 韓国国会委員会館
IGS セミナー開催	「地政学、安全保障、女性の身体」を開催 (2018 年 11 月)。(本報告書 65 頁参照)

政治・思想とジェンダー 研究プロジェクト

科学研究費基盤研究 B（課題番号：18H00817）

女性の政治参画の障壁：国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査

【研究代表者】三浦まり（上智大学教授）

【研究分担者】申琪榮（IGS 准教授）、Noble Gregory（東京大学教授）、
スティー爾若希（東京大学准教授）、MCELWAIN KENNETH（東京大学准教授）

【期間】2018～2020 年度

【概要】

女性の政治参画に対する障壁を国会議員および主要政党の都道府県支部への調査を通じて明らかにする。国際的な研究成果に基づいて、とりわけ「政党の候補者リクルートメントと公認決定過程」に焦点をあて、郵送調査と政党関係者にインタビュー調査を組み合わせ、政治参画に関する男女差、政党差、地方差はどのように見られるかを考察する。

【研究内容・成果】

公開研究会実施	Wan-ying Yang（台湾政治大学政治学科教授）「The Gender Implication of the 2018 Local Elections and Referendums in Taiwan」 2018 年 2 月 12 日上智大学
国会議員アンケート調査票	2018 年度は、第 2 次国会議員アンケート調査のため調査票の質問について研究プロジェクトメンバー間で議論を重ねて完成した。第 1 次の反省を踏まえ質問数を大幅に減らし、主に「政治分野における男女共同参画を推進する法律」と制度改革に対する意見を聞く質問を中心に構成した。
学会発表	2018. “Does “Constituency Facetime” Reproduce male Dominance: Insights from Japan’s Mixed-Member Majoritarian Electoral System,” International Political Science Association, Brisbane, Australia, July 21-25 (With Mari Miura and Jackie Steele).

政治・思想とジェンダー 研究プロジェクト

韓国研究財団一般共同研究（課題番号：NRF-2016926559）

議会内政治的代表的性の性差に関する公式、非公式的制度要因分析： 韓国・日本・台湾比較分析

【研究代表者】 Ah-ran Hwang（釜山大学教授）

【研究分担者】 申琪榮（IGS 准教授）

Jinock Lee（韓国ジェンダー政治研究所研究委員）

Soo-hyun Kwon（韓国ジェンダー政治研究所研究委員）

【期間】 2016～2018 年度

【概要】

2 年間の研究助成による韓国調査の研究プロジェクトであり、最終年度の 2018 年には、主に成果のまとめと執筆に専念した。メンバーらによる韓国語、英語の成果発表がなされた。

【研究内容・成果】

学会発表	メンバーらは、世界政治学会（IPSA）共通パネルを形成し研究発表を行った。
国際シンポジウム	「韓国のクォータ制度は定着したのか」 釜山大学 女性研究所 30 周年記念シンポジウム『政治的代表的性のジェンダー格差と制度』 2018 年 9 月 14 日 釜山市
海外講演会	「MeToo から女性政治まで：社会の周辺から政治的主体へ」 市民政治 フォーラム（2018 年 8 月 24 日）、韓国国会委員会館、韓国ソウル市

【論文受賞】

世界政治学会（International Political Science Association, 2018 年 7 月 ブリスベン開催）にて、「ジェンダーと政治」分野の最優秀論文賞（Wilma Rule Best Award 2018: IPSA Best Research on Gender and Politics）を受賞。（世界政治学会 HP <https://www.ipsa.org/awards/wilma-rule>）

論文タイトル

Does “Constituency Facetime” Reproduce Male Dominance? Insights From Japan’s Mixed-Member Majoritarian Electoral System

Author : Prof. Ki-Young Shin

Co-Authors : Prof. Jackie F. Steele, Prof. Mari Miura

政治・思想とジェンダー 研究プロジェクト

IGS 研究プロジェクト

リベラル・フェミニズムの再検討

【研究担当】板井広明（IGS 特任講師）

【概要】

本研究プロジェクトの目的は、ベンサムやウルストンクラフト、J.S.ミルといった第1波フェミニズムあるいはリベラル・フェミニズムの思想・運動を再検討することにある。リベラリズムの公私二元論を前提にしたリベラル・フェミニズムは乗り越えの対象でしかないという捉え方が一般的だが、リベラリズムにおいて、「公」に対する「私」の領域は単に個人的自由の空間であると放任されるのではなく、不正義が存在すれば介入が正当化される空間でもあった。本研究では、ベンサムの女性論に関する草稿研究と、J.S.ミルの *The Subjection of Women*, 1869 のテキスト読解と『女性の隷従』新訳の作業を進め、リベラル・フェミニズム再検討の機運を盛り上げることを狙う。

【研究内容・成果】

訳文検討会	隔週でオンライン訳文検討会を開き、第1章の一文一文の原意を汲み取り、当時の社会的背景や他の思想家との関連などをチェックしつつ読み進め、訳文を完成させた。
IGS セミナー開催	2018 年 10 月 1 日（月）「ブリテンにおける「リベラル・フェミニズム」再考」と題する、6 人の報告者と 2 人のコメンテーターからなるセミナーを開催した。（本報告書 61 頁参照） 梅垣千尋（青山学院女子短期大学）「ウルストンクラフトのフェミニズム：理性・徳・知識における平等」 板井広明（お茶の水女子大学 IGS）「ベンサム功利主義における女性・結婚・両性の平等」 土方直史（中央大学・名誉教授）「1820 年代のイギリス・フェミニズムと功利主義」 山尾忠弘（慶應義塾大学・院）「J.S.ミルとウィリアム・トンプソン：リベラルフェミニズム概念の批判的再検討にむけて」 船木恵子（武蔵大学）「ヴィクトリア時代の経済発展とフェミニズムの理論化」 討論者：後藤浩子（法政大学）、小沢佳史（九州産業大学）

IGS 研究プロジェクト

「東アジアの越境的女性運動」研究

【研究担当】 大橋史恵（IGS 准教授）

【概要】

今日の女性運動は、路上や広場、公共交通機関、大学キャンパス、議場、ジャーナリズム、サイバー空間など、さまざまな場で実践され、課題解決に向けた国際的連帯とアクションを生み出している。本研究は東アジアにおけるそのような越境的女性運動の展開について考察するものである。具体的には（1）ILO「家事労働者のためのディーセント・ワークに関する条約」（第 189 号条約）に関連する労働運動、（2）反軍事化をめぐる女性たちの運動、（3）中国の女権主義者たちのトランスローカル/トランスナショナルな運動に目を向ける。

【研究内容・成果】

論文

大橋史恵「『寄る辺のなさ』を越える—中国の都市社会に生きる農村女性たち」、川端浩平・安藤丈将編『サイレント・マジョリティとは誰か—フィールドから学ぶ地域社会学』、ナカニシヤ出版、2018 年。

(Ⅱ) 生殖・身体とジェンダー

これからの日本社会の持続的な発展のためにも、女性の社会進出に期待がかかり、実際に様々な方面で活躍する女性が増えてきている。しかし、その一方で女性の初婚年齢や第一子の出産年齢が高くなり、それに伴って不妊治療を受けるカップルの数も急増している。第三者の精子や卵子を利用した不妊治療や代理出産を求めるカップルも年々増加傾向にあるが、日本産科婦人科学会によって実質禁止されている卵子提供や代理出産、またドナー不足のために調達が難しい精子を求めて、不妊カップルが外国へ渡る生殖医療ツーリズムも活発化しつつある。

生殖医療は、少子化問題とも相まって、近年では社会的にも注目され、その是非が議論的となっている。「生殖とジェンダー」の分野では、生殖医療に関連するさまざまな問題に焦点を当て、倫理的・社会的側面、ならびにジェンダーの視点から研究をすすめてきた。特に 2018 年度は、人口政策と不妊治療支援の関係性や、精子や卵子のドナーの匿名性と生まれた子どもの出自を知る権利をめぐる問題、第三者のかかわる生殖補助技術で形成された家族に関する研究を中心に、プロジェクトに取り組んだ。

IGS 研究プロジェクト

生殖医療とジェンダー

【研究担当】 仙波由加里（IGS 特任リサーチフェロー）

【概要】

生殖医療の進歩はめざましく、第三者の精子や卵子、代理出産を利用した生殖医療技術の是非について、社会や専門家集団の間で検討が不十分なまま、一般社会での利用が広まっている。こうした状況は、産む性である女性たちに、より大きな影響を及ぼしている。本研究では、国内外を問わず、生殖医療の普及が女性たちに及ぼしている影響を明らかにする。

【研究内容・成果】	
IGS セミナー（生殖領域）の開催	10月29日、金沢大学の日比野由利氏を招いて IGS 公開セミナーを開催。日比野氏からは『代理出産をめぐる世界の現状～商業的代理出産から利他的代理出産へ』と題して、アジアにおける生殖ツーリズムの状況について報告を受け、これについて参加者と議論を重ねた(本報告書 63 頁参照)。
IGS セミナー（生殖領域）の開催	11月16日、大阪大学の小門穂氏を招いて、IGS 公開セミナーを開催。『フランスにおける LGBT と生殖医療および性別の表記変更』と題して、フランスの性的マイノリティーの人々に対する生殖医療の提供の状況について報告を受け、参加者と活発な議論を重ねた(本報告書 67 頁参照)。
白井千晶（静岡大学）主催の研究会への参加	12月5日、インド工科大学の Anindita Majumdar 氏を招いての研究会に参加し、インドの代理出産についての情報提供を受け、日本の研究者からは、日本の代理出産や第三者のかかわる生殖補助医療に関連する状況を提供した。

生殖・身体とジェンダー 研究プロジェクト

IGS 研究プロジェクト

人口政策としての不妊治療支援に関する日韓の比較研究

【研究担当者】 仙波由加里（IGS 特任リサーチフェロー）

Yoon Jiso（韓国女性政策研究院研究員）

【概要】

日本も韓国も少子化の進行が社会問題となっているが、両国では生殖補助技術が少子化対策に利用されるようになってきている。本研究では、両国の政府が少子化対策として策定した不妊治療をサポートするためのプログラムや政策に焦点を当て、この不妊治療支援政策の効果、および少子化社会での社会的圧力による患者たちのストレスをジェンダー視点から検証する。

【研究内容・成果】

論文の投稿準備

2017 年に IAFFE で報告した内容をベースに、2018 年度はジャーナルの投稿を試みたいが、まだ掲載とはなっていない。

研究交流

2018 年 3 月に国立台湾大学の Chia-Ling Wu 氏が調査のために IGS を訪れたのをきっかけに、2015 年にはじまった台湾の不妊治療支援事業と日本の最新の不妊治療支援事業の内容について、メール等で情報交換。また 9 月にはオーストラリアのシドニーで再会し、さらに情報交換した。

研究交流

9 月のオーストラリア調査時に 4S コンファレンス（シドニー）に参加していた韓国の Ha Jung-Ok 氏(大韓民国近代歴史博物館)と会い、韓国の不妊治療支援の情報について提供してもらった。Ha 氏は韓国の不妊治療支援についての論文を数多く発表している。

生殖・身体とジェンダー 研究プロジェクト

科学研究費基盤研究 C (課題番号: 18K00034)

諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究

【研究代表者】 仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【期間】 2018～2020 年度

【概要】

日本の精子提供はこれまで匿名で実施されてきた。近年、卵子提供にも注目が集まる中、ドナーの匿名性の是非について議論される機会が増えると予測される。本研究は国内での議論に向けて、出生者の出自を知る権利を法で保障する国について、法制定までにどのような議論があったか、および法施行後の状況を明らかにするものである。

【研究内容・成果】

オーストラリア調査	8 月下旬から 9 月上旬にかけて、オーストラリアのヴィクトリア州を訪れ、VARTA の Kate Bourne 氏、モナシュ大学の Karin Hammarberg 氏、スウィンバーン工科大学准教授の Deborah Dempsey 氏などから、Victoria 州で 2016 年から施行されている Assisted Reproductive Treatment Amendment Act 2016 (Vic) が承認されるまでの経緯や問題点を聞き取り調査した。また精子提供で生まれた当事者にも、この法律に関する考えをインタビューした。
文献収集	2019 年度に実施する予定の Norway 調査のための文献収集、および文献調査を実施中。

生殖・身体とジェンダー 研究プロジェクト

公益財団法人トヨタ財団 2016 年度研究助成プログラム（B）個人研究助成
生殖補助技術で形成される家族についての研究

【研究担当】 仙波由加里（IGS 特任リサーチフェロー）

【期間】 2017 年 5 月～2019 年 12 月

【概要】

近年、日本でも、生殖補助医療がますます一般化し、技術の需要も技術での出生児数も年々増加している。本研究では特に、第三者が介入する生殖技術で形成された家族について、国内外の家族へのインタビューを通して、家族の成り立ちを子どもたちとどのように共有し、家族関係を構築しているのかを探る。

【研究内容・成果】

文献調査	オーストラリアの当事者に連絡をとり、紹介してもらった文献や Youtube を見ながら、研究を実施。
依頼講演	日本科学未来館公開セミナー『卵子提供・代理出産で家族をつくる』で、「提供精子・提供卵子でつくられた家族—ニュージーランド・イギリスの事例から」というタイトルで講演。（5 月 12 日、日本科学未来館。参加者約 40 名）
学会報告	第 30 回日本生命倫理学会年次大会 一般口演 V で「理想的な配偶子ドナーとはどのような人か—ニュージーランドと英国でのドナーへのインタビューから—」というタイトルで報告（2018 年 12 月 8 日-9 日、京都府立医科大学）
論文の投稿	第 30 回日本生命倫理学会年次大会で報告した内容をもとに、日本生命倫理学会の学会誌『生命倫理』に投稿中。
報告書の作成	2017 年に行った英国や日本でのインタビューデータをまとめ、報告書原稿を作成中。

生殖・身体とジェンダー 研究プロジェクト

科学研究費基盤研究 C（課題番号：16K12111）

AID で生まれた人の「出自を知る権利」を保障するための教材作成に関する研究

【研究代表者】 清水清美（城西国際大学教授）

【研究分担者】 仙波由加里（IGS 特任リサーチフェロー）

【期間】 2016～2018 年度

【概要】

日本では提供精子による人工授精が 60 年以上も実施され、精子提供者は匿名を原則としてきた。しかし諸外国では、子の福祉を考慮し、ドナーの匿名性を廃止する動きが広がっている。本研究は精子提供の利用や精子ドナーになることを検討している人が、出生者の出自を知る権利の保障の重要性を理解できるような情報を提供する資料の作成を最終目的とする。

【研究内容・成果】

ニュージーランドの精子ドナーにインタビュー調査

2019 年 1 月東京医科大学がセミナー開催のために招聘したニュージーランドの精子ドナー、Gerard Dunne さんとミーティングを持ち、出自を知る権利についての意見を求める。

文献調査

教材作成のための諸外国の文献について、調査を実施。

(Ⅲ) 経済・移動とジェンダー

「経済・移動とジェンダー」研究では、グローバル化の下での生産領域・再生産領域・金融領域のマクロな変容を見据えつつ、人びとの経済的営為や移動と滞留をめぐる主体的意識といったミクロ次元での変化、ローカルな法秩序や制度、人びとのネットワークといったメゾレベルでの変化がどのように起きているかをジェンダー視点から分析する。

2018 年度は「資本と身体ジェンダー分析」「新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー」の二つのプロジェクトの連携においてサスキア・サッセン氏を招いたワークショップを実施し、グローバル化の下での〈放逐〉をめぐる積極的な議論がおこなわれた。またマイグレーション・スタディーズの領域で研究をおこなう大橋史恵 (IGS 准教授) と大野聖良 (特任リサーチフェロー) がメンバーとして新たに加わったことをきっかけに、移動に関するさまざまな制度やネットワークについての新しい研究プロジェクトが複数立ち上げられた。

IGS 研究プロジェクト

資本と身体ジェンダー分析：資本機能の変化と『放逐』される人々

【研究担当】 足立眞理子（IGS 客員研究員）

【メンバー】 大橋史恵（IGS 准教授）、板井広明（IGS 特任講師）

【概要】

本プロジェクト「資本と身体ジェンダー分析：資本機能の変化と『放逐』される人々」は、グローバル金融危機以降の資本の中核機能の変化を分析する。サスキア・サッセンの「放逐 expulsions」概念に着目して、従来の身体断片化や排除／包摂の概念では把握不能な「放逐」の「常態化」をジェンダー分析の視点から行う。

【研究内容・成果】

IGS セミナー	2018 年 10 月 15 日（月）、IGS セミナー「フェミニスト視点からのグローバル化とデイスロケーション：サスキア・サッセンとの対話」（Globalization and Dislocation from Feminist Perspective: Dialogues with Saskia Sassen）を開催した。第 1 部は、サスキア・サッセン氏が「包摂、排除、放逐」のテーマにおいて講演をおこなった。第 2 部ではワークショップ形式をとって「サスキア・サッセンとの対話」を実施した。3 名のディスカッサント（堀芳枝（獨協大学）大野聖良（お茶の水女子大学）本山央子（お茶の水女子大学））による問題提起とサッセン氏からの応答を中核としたインテンシブな討論がおこなわれた（本報告書 79 頁参照）。なお、このセミナーは科研費プロジェクト「新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー」との共催によって実施された。
論文	足立眞理子「アベノミクスにおける金融緩和とジェンダー」フェミニスト経済学会『経済社会とジェンダー』（3）、pp. 43-57, 2018 年。 大橋史恵「『逃げ恥』考——再生産労働は『夫婦を超えてゆけ』るか」、『女性労働研究』（68）、pp.198-205, 2018 年。ほか

経済・移動とジェンダー 研究プロジェクト

科学研究費基盤研究 B（課題番号：17H02247）

新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー：インド・フィリピン・中国の国際比較

【研究代表者】堀芳枝（獨協大学教授）

【研究分担者】大橋史恵（IGS 准教授）、足立真理子（IGS 客員研究員）

長田華子（茨城大学准教授）、落合絵美（岐阜大学特任助教）

【期間】2017～2019 年度

【概要】

本研究は 2000 年代に入ってフィリピン、インド、中国でサービス部門の国際分業として展開し始めているビジネス・プロセス・アウトソーシング（BPO）の国際資本移転の動向と女性の労働、社会変容についての国際比較をおこなう。最終的には新興アジアのサービス部門の国際分業論の構築をめざす。

【研究内容・成果】

研究会	6 月 8 日（金）、7 月 20 日（金）、2 月 23 日（土）の 3 回、各国・地域の BPO 産業の状況について検討する研究会をおこなった。
IGS セミナー	10 月 15 日（月）セミナー「フェミニスト視点からのグローバル化とデイスロケーション：サスキア・サッセンとの対話」（Globalization and Dislocation from Feminist Perspective: Dialogues with Saskia Sassen）を共催した（前掲）。
論文	長田華子「作り手が報われる社会を目指して：安価な衣服の生産拠点バングラデシュの労働実態から」、『連合総研レポート』（336）pp.4-8, 2018 年。 落合絵美「経済成長と家族のはざまで生きる女性：シンガポールにおける高齢者福祉政策のジェンダー分析」フェミニスト経済学会『経済社会とジェンダー』（3）pp.121-135, 2018 年。ほか

経済・移動とジェンダー 研究プロジェクト

IGS 研究プロジェクト

日比間の在留資格「興行」をめぐる言説編成の解明：入国管理のジェンダー分析を目指して

【研究担当】大野聖良（IGS 特任リサーチフェロー）

【概要】

本研究は在留資格「興行」の制度化と規制を取り巻く日本とフィリピンの複数のアクターの言説に注目し、それらが移住女性のセクシュアリティをいかに規定しながら、女性たちの来日・就労の有様を形成してきたのかを明らかにするものである。このような考察を通じて、入国管理のジェンダー分析の理論構築を目指す。

【研究内容・成果】

学会発表

日本移民学会 2018 年大会にて、「招聘業界における在留資格「興行」の問題構成。ー招聘業界誌『入国ジャーナル』をてがかりに」を発表した（6 月 24 日南山大学）。

学会発表

27th International Association for Feminist Economics Annual Conference にて、“Gendered Immigration in Japan: Entertainment Visas Reconsidered” を発表した（6 月 19 日、米国）

ワークショップ講演

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院・東アジアメディア研究センター・メディア・ツーリズム研究センター・科研 (C) 「森崎和江の越境する連帯の思想」主催ワークショップ「森崎和江の越境する連帯の思想——『からゆきさん』の近代と現代」にて、「『ジャパゆきさん』とは誰か——日本の女性運動の視点から」というテーマで講演した（8 月 8 日北海道大学）

IGS セミナー開催

IGS セミナー「近代日本の女性の移動と再生産：「からゆきさん」の生涯をめぐって」を企画開催した。（2019 年 2 月 21 日）（本報告書 75 頁参照）。

海外調査の実施

フィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学附属図書館のアーカイブセンターにて、エンターティナーとしての「出稼ぎ」に関する現地主要新聞・雑誌記事等の資料収集を 3 月・8 月に実施した。

経済・移動とジェンダー 研究プロジェクト

科学研究費基盤研究 B（課題番号：17H02600）

日比間の人の移動における支援組織の役割：移住女性と JFC の経験に着目して

【研究代表者】小ヶ谷千穂（フェリス女学院大学教授）

【研究分担者】大野聖良（IGS 特任リサーチフェロー）、原めぐみ（和歌山工業高等専門学校助教）

【期間】2017～2019 年度

【概要】

過去 20 年以上にわたって、日比間の人の移動を大きく特徴づけてきた、在留資格「興行」での女性エンターティナーの流入と、その帰結としての日比国際児（Japanese Filipino Children：JFC）の誕生・成長、そして日本への新たな流入がみられる。本研究はこの一連の現象が日比双方の社会において「社会問題」視されてきた過程の中で、日比双方における支援組織がアクターとして果たしてきた役割について、複合的な視点から明らかにすることを目的とする。

【研究内容・成果】

学会発表	4th Philippines Studies Conference in Japan にて、“The Movement against “Entertainment Visas” by NGOs in the Philippines: Between Human Trafficking and Migration (Three Decades of Trajectory of Research and Action for Migrant Women and Japanese-Filipino Children)”を発表した（11 月 18 日、広島大学）
ワークショップ開催	NGO Maligaya House と共催で、「フィリピン・マリガヤハウス設立 20 周年記念会」を開催し、JFC のパネルディスカッションや人身取引問題に関するレクチャーを企画・実施した。
フィールドワーク実施	フィリピンを拠点とする NGO・DAWN と Maligaya House、日本を拠点とする JFC ネットワークにおいて、資料収集およびインタビュー調査、イベント参加を通じた参与観察を 3 月・8 月・12 月に実施した。

経済・移動とジェンダー 研究プロジェクト

国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））（課題番号：18KK0056）

グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの：聞き取りとネットワーク分析から

【研究代表者】 青山薫（神戸大学教授）

【研究分担者】 大野聖良（IGS 特任リサーチフェロー）、熊田陽子（首都大学東京客員研究員）

中村文子（山形大学准教授）

【期間】 2018～2022 年度

【概要】

本研究は、グローバル化がもたらした国境を越える性取引とは何かを、当事者の経験を通して、また、当事者と仲介者の接触を軸としたネットワークを通して明らかにすることをめざす。そのために本研究は、1）性取引に携り「脱法/不法就労者」とされる人々および人身取引対策等によって「被害者」とされる人々へのライフストーリー聞き取り調査、2）当事者と性風俗産業をつなぐ仲介者あるいは人身取引トラフィッカーの関係を中心とするネットワーク分析を行う。

【研究内容・成果】

文献調査等

次年度の調査準備として、文献調査とインタビュー調査設計を実施した。特に、次年度4月に実施するイギリス・ケンブリッジ大学、エセックス大学、サセックス大学での文献調査や研究者とのワークショップ開催に向けての準備を実施した。

経済・移動とジェンダー 研究プロジェクト

科学研究費基盤研究 C (課題番号: 17K04196)

人身売買／取引をめぐる市民活動の変遷：ネットワーク再構築に向けて

【研究代表者】 佐々木綾子 (千葉大学講師)

【研究分担者】 大野聖良 (IGS 特任リサーチフェロー)、島崎裕子 (早稲田大学准教授)

【期間】 2017～2019 年度

【概要】

本研究は、「人身売買/取引」という現象が日本の市民活動にもたらした意義とその変遷を、同問題解決のための市民運動を担ってきた人々に焦点を当てて明らかにする。「人身売買/取引」をめぐる市民活動の求心力はどこにあり、それがどのように変遷したのかを考察することで、「人身売買/取引」概念を再考し、それに取り組むことのできる市民活動ネットワークを再構築することを研究の副次的目標とする。

【研究内容・成果】

学会報告	国際ジェンダー学会 2018 年大会で、佐々木綾子氏と共に「日本におけるトラフィッキング概念の形成と運動の検討 ——アメリカとの比較から」を発表した (9 月 2 日聖心女子大学)。
インタビュー調査	人身取引の被害者支援に携わってきた民間シェルター (元) スタッフにインタビューを 2 月 (栃木)・8 月 (神奈川) で実施した。支援に携わるようになった経緯や支援活動における問題点や課題について意見交換を行った。

科学研究費基盤研究 C（課題番号：17K02067）

現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容

【研究代表者】平野恵子（IGS 研究協力員）

【期間】2017～2020 年度

【概要】

本研究は、インドネシアにおける「移住・家事労働者」の変容を、移民政策および国内家事労働者の派遣形態の変化から検討する。今年度は、特にジャカルタ首都圏における新中間層台頭を受けた居住形態の変化と、それに伴う家事労働者の派遣形態の変化の現状を把握し、従来の住み込み型との権利保障の差異を考察する。

【研究内容・成果】

論文掲載

平野恵子, 2018, 「書評 安里和晃編『国際移動と親密圏——ケア・結婚・セックス』京都大学学術出版会、2018 年」『日本フェミニスト経済学会誌——経済社会とジェンダー』3: 137-9.

学会発表（国際）

国際フェミニスト経済学会（IAFFE）2018 年度大会において、インドネシアにおけるギグ・エコノミー型派遣家事労働の現状について報告した。

Hirano Keiko, 2018, “Gig-economy and domestic workers in Indonesia” The 27th International Association for Feminist Economics (IAFFE) 2018 Annual Conference at SUNY New Paltz (New Paltz, NY), Panel on Women’s initiative to policy and practice in empirical studies: in qualitative research in the field of labor, activity and support, Oral Presentation, 19th June 2018.

学会発表（国内）

日本フェミニスト経済学会（JAFPE）2018 年度大会において、インドネシア、ジャカルタ首都圏におけるギグ・エコノミー型家事労働者の派遣について、ジャカルタ首都圏の経済変容および都市化の観点から報告した。

平野恵子, 2018, 「ジャカルタ首都圏におけるギグ・エコノミーと家事労働者」日本フェミニスト経済学会 2018 年度大会於ウィングス京都、2018 年 7 月 7 日

経済・移動とジェンダー 研究プロジェクト

科学研究費基盤研究 C (課題番号: 17K02051)

インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合

【研究代表者】 中谷潤子 (大阪産業大学准教授)

【研究分担者】 平野恵子 (IGS 研究協力員)、北村由美 (京都大学准教授)

【期間】 2017～2019 年度

【概要】

本研究は、インドネシア人移住労働者の再統合について、帰還後のライフステージ構築の過程を、本人や家族、コミュニティメンバーへの聞き取り調査をもとに明らかにする。分担者 (平野) は特に、ジャカルタ首都圏における家事労働者組合で、移住家事労働を経験する組合員に帰還後の職業選択につき聞き取りをおこない上記課題を明らかにする。

【研究内容・成果】

現地調査、研究会等

研究課題に基づき、ジャカルタ首都圏において現地調査を実施した。

年度末の 3/27 研究会にて、調査研究の進捗状況を各自報告するとともに、最終年度である次年度に国際学会 SEASIA にて報告予定の各々の原稿を検討した。

研究会翌日 3/28 には、講演者に長津一史氏 (東洋大学) をお招きして、「海辺に住まうことの地域間比較——東北とインドネシアにおける津波経験と復興のかたち」と題した公開研究会を、代表者である中谷潤子氏の所属先 (大阪産業大学) において開催し、帰還移民と地域研究の接合について考察する機会を得た。

▶ 2018 年度 外部資金獲得状況

国内外における競争的研究資金の高い獲得実績

国際的研究拠点形成のための共同研究や連携プロジェクトの実施のための研究資金は、ジェンダー研究所の研究基盤形成のために欠かせない。お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構や研究所の共通課題に加え、研究所所属の教員及び研究者は、独自に個別研究課題を設定し、多くの外部資金を獲得して研究活動を行っている。日本学術振興会科学研究費基盤研究 A「IT 社会の子育てと家族・友人関係：日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較から」（研究代表者：石井クンツ昌子）ほか多数の外部資金を得ており、2018 年は新規採択が 3 件あった。海外の研究資金により国際共同研究にも積極的に参加している。韓国研究財団による一般共同研究「議会内政治的代表的性の性差に関する公式、非公式的制度要因分析：韓国・日本・台湾比較分析」（研究分担者：申琪榮）は、ジェンダー研究所の研究プロジェクトと共同研究を進めるために韓国で獲得したものである。

2018 年度の新たな実績を具体的に見ると、国内最大の科学研究支援機構、日本学術振興会（JSPS）の研究助成による新規採択が 3 件あった。科学研究費基盤研究 B（課題番号：18H00817）「女性の政治参画の障壁：国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査」（研究分担者：申キョン）、科学研究費基盤研究 C（課題番号：18K00034）「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」（研究代表者：仙波由加里）、国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））（課題番号：18KK0056）「グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの：聞き取りとネットワーク分析から」（研究分担者：大野聖良）である。

継続採択として、研究所教員等研究者が研究代表を務める課題として、科学研究費基盤研究 A（課題番号：26242004）「IT 社会の子育てと家族・友人関係：日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較から」（研究代表者：石井クンツ昌子）、基盤研究 C（課題番号：17K02067）「現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容」（研究代表者：平野恵子）、公益財団法人トヨタ財団 2016 年度研究助成プログラム（B）個人研究助成「生殖補助技術で形成される家族についての研究」（研究代表者：仙波由加里）がある。そのほか、基盤研究 B（課題番号：17H02247）「新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー インド・フィリピン・中国の国際比較」（研究分担者：大橋史恵、足立眞理子）、基盤研究 C（課題番号：16K12111）「AID で生まれた人の「出自を知る権利」を保障するための教材作成に関する研究」（研究分担者：仙波由加里）、基盤研究 B（課題番号：17H02600）「日比間の人の移動における支援組織の役割：移住女性と JFC の経験に着目して」（研究分担者：大野聖良）、基盤研究 C（課題番号：17K04196）「人身売買／取引をめぐる市民活動の変遷：ネットワーク再構築に向けて」（研究分担者：大野聖良）、基盤研究 C（課題番号：17K02051）「インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合」（研究分担者・平野恵子）には、研究所メンバーが 2018 年度も研究分担者として参加した。

外部資金の獲得は、研究所が質の高い研究を行うために欠かせないが、単なる研究資金を調達すること以上の意味を持つ。競争的資金への挑戦は、研究所のメンバーらが各自専門領域で優れた成果を目指す動機を付与するとともに、分担者として研究所共通のプロジェクトや国内外の研究ネットワークに参加し、先端研究者らとの交流を進める機会を提供する。

総じて、今年度研究所構成メンバーによる優れた外部資金獲得状況は、そのような好循環に基づき、研究所の研究活動が高く評価された結果と捉え、来年度につなげたい。

競争的外部資金による研究プロジェクト一覧

プロジェクト名称	期間（年度）	担当
科学研究費基盤研究 A（課題番号：26242004） IT 社会の子育てと家族・友人関係：日本、韓国、米国、スウェーデンの 国際比較から	2014～2018	石井
科学研究費基盤研究 B（課題番号：17H02247） 新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー インド・フィリピン・ 中国の国際比較	2017～2019	大橋 足立 (分担者)
科学研究費基盤研究 B（課題番号：18H00817） 女性の政治参画の障壁：国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査	2018～2020	申 (分担者)
科学研究費基盤研究 C（課題番号：18K00034） 諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関 する研究	2018～2020	仙波
公益財団法人トヨタ財団 2016 年度研究助成プログラム（B）個人研究助成 生殖補助技術で形成される家族についての研究	2017～2019	仙波
科学研究費基盤研究 C（課題番号：16K12111） AID で生まれた人の「出自を知る権利」を保障するための教材作成に関す る研究	2016～2018	仙波 (分担者)
科学研究費基盤研究 B（課題番号：17H02600） 日比間の人の移動における支援組織の役割：移住女性と JFC の経験に着目 して	2017～2019	大野 (分担者)
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））（課題番号：18KK0056） グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの：聞き取りとネットワーク 分析から	2018～2022	大野 (分担者)
科学研究費基盤研究 C（課題番号：17K04196） 人身売買／取引をめぐる市民活動の変遷：ネットワーク再構築に向けて	2017～2019	大野 (分担者)
科学研究費基盤研究 C（課題番号：17K02067） 現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容	2017～2020	平野
科学研究費基盤研究 C（課題番号：17K02051） インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再 統合	2017～2019	平野 (分担者)
Social Science Korea East Asian International Relations Theory	2015～2018	申 (分担者)
韓国研究財団 一般共同研究（課題番号：NRF-2016926559） 議会内政治的代表性の性差に関する公式、非公式的制度要因分析：韓国・ 日本・台湾比較分析	2016～2018	申 (分担者)

▶学会等活動一覧

石井クンツ昌子（所長）

日本家族社会学会（会長）、日本学術会議／連携会員／統計データアーカイブ分科会（会長）／ウェブ調査の課題に関する検討分科会（幹事）、日本社会学会（理事）／社会学教育委員会（副委員長）／国際発信強化特別委員会、日本家政学会家族関係部会（役員）、福井県男女共同参画審議会（会長）、National Council on Family Relations

申琪榮（准教授）

International Political Science Association、American Political Science Association、European Conference on Gender and Politics、International Feminist Economics Association、日本政治学会（分野別研究会「ジェンダーと政治研究会」）、日本フェミニスト経済学会、日本社会政策学会、ソウル大学日本研究所『日本批評』海外編集委員、韓国ジェンダー政治研究所理事・研究委員、ソウル大学（Social Science Korea）東アジア地域秩序研究会共同研究員、日本比較政治学会（編集委員）、「女性・戦争・人権」学会、European Association for Japanese Studies

大橋史恵（准教授）

International Association for Feminist Economics、日本社会学会、関東社会学会、日本フェミニスト経済学会（幹事会役員）、ジェンダー史学会（常任理事）、現代中国学会

板井広明（特任講師）

経済学史学会（幹事、編集委員、編集委員会事務局）、日本イギリス哲学会、社会思想史学会、政治思想学会、日本フェミニスト経済学会（幹事）、日本有機農業学会、経済理論学会（分野別ジェンダー分科会コアメンバー）

仙波由加里（特任 RF）

日本医学哲学・倫理学会（国際誌編集委員）、日本生命倫理学会（評議委員）、日本生殖看護学会、European Society of Human Reproduction and Embryology (ESHRE)

大野聖良（特任 RF）

国際ジェンダー学会（評議員・編集委員）、日本女性学会、ジェンダー法学会、日本フェミニスト経済学会、国際政治学会、日本移民学会